

海外対応で新会社

国内は縫製工場と連携

中国生産アパレルのプレス事業を行っているヤマサワプレス（本社東京、山澤亮治代表）は来年、海外生産対応の専門会社を設立する。既存のヤマサワプレスは国内の縫製工場と組み、小ロット・短サイクル、高付加

価値の国内生産品に事業を特化。将来は国内縫製工場とのネットワークを強化し、物作りまで踏み込む考えだ。同社は2年前から中国生産品にシフトして業績を伸ばしている。現在のペースでは手狭になっ

たため、海外生産品対応の新会社を立ち上げる。

一方で、現在も増えつつある小ロット・短サイクルの企画が今後も増加すると見て、国内生産への対応も強化する。

現在は海外と国内の2ラインに分けて運営しており、海外が80%を占める。60人の従業員と繁忙期の登録社員60人で、ピーク時には5000〜6

000枚のプレスをす

る。プレスだけではなく「トータルなファッショ

ンサービスをめざして」

おり、値札付けや検品、

一部補修もし、自社便で

取引先センターや店舗へ

配送している。取引先は

SPA（製造小売業）を

軸とする大手アパレルメ

ーカーや商社、セレクト

ツシヨップが中心。中国生産への対応を強

めて業績を伸ばしてきたが、一方で、国内縫製工場の営業活動も代行している。「当社は技術ではどこにも負けない自負があり、その縫製工場も高い技術をもっているが、営業はなかなか難しい。今後は全国の縫製工場と同様のネットワークを築き、双方の技術を生かした取り組みを始めたい」（山澤代表）という。